

鉄道軌道建設工事における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	1	3 ～ 4	枕木運搬が終了しライトバンにて事務所に戻る途中、道路から転落して、1.5m下の土手に激突、助手席の1名が死亡、運転者を含む2名が負傷した。	231	17	10 ～ 29
1999	1	9 ～ 10	駅構内の災害復旧土留擁壁工事現場において、高さ1.8m、幅0.3m、長さ35mのコンクリート擁壁の型枠を解体していたところ、コンクリート擁壁が長さ25mに渡って倒壊したもの。	418	5	1～ 9
1999	2	4 ～ 5	軌道整備で枕木の変換作業中、始発普通電車(8両編成)に接触して頭蓋底骨折を負った。	232	6	1～ 9
1999	2	13 ～ 14	線路でボーリングマシンを使って地盤改良のために基礎杭打設中、排出土を柄杓ですくってバケットに入れていてマシン回転部の突出ピンに衣服が引っ掛かり、削孔機に巻き込まれた。	143	7	30 ～ 49
1999	4	14 ～ 15	地下鉄敷設工事現場において、土止壁に付着した土石をスコップにより手作業で除去していたところ、既設の下水道構造物の下部に付着していた土塊が落下し、頭部に当たった。	418	4	30 ～ 49
1999	6	13 ～ 14	バラストの整理作業を外気温28℃のところ座っていたので声をかけたところ、腰が痛いと言うので貨物自動車の窓を開けて、後部座席に寝かせて休養を取らせていたが容体が急変し、救急車で病院に搬送したが死亡した。	719	90	30 ～ 49

2000	4	12 ～ 13	くい打機搬入のために作業帯を設ける準備作業を行っていたところへ対向車線を走行してきたワゴン車が誘導者の指示を無視して作業帯に突っ込んで、はねとばされた。	231	6	～ 99
2000	8	12 ～ 13	駅高架橋修繕工事において、落下防護網取付作業を高所作業車を使用して行っていたときに高所作業車の搬器が急上昇し、駅高架橋のコンクリート床板と搬器との間に挟まれた。	146	7	1～ 9
2000	9	9 ～ 10	上り線軌道のバラスト整理作業を開始するため上り線に作業標識を設置したのち、下り線脇を作業場所まで戻っていたときに特急列車に激突された。	232	6	～ 29
2001	1	12 ～ 13	踏切の警報機・遮断機の電気配線を通す積上式マンホールを埋設するため深さ1.5mの掘削底部で床均し作業を行っていたところ、掘削箇所の法面に埋設されていた遮断機のコンクリート製基礎の下部の土砂が崩れたため基礎が倒れ、地山と基礎との間に挟まれた。	711	5	10 ～ 29
2001	10	12 ～ 13	軌道道床のつき固め作業中、列車接近で待避命令が発出されたことから県道の跨道橋部に待避したときに、跨道橋と隣接する公道間52cmの隙間から約7m下の県道上に墜落した。	418	1	～ 29
2002	2	17 ～ 18	工事現場での作業が終了したワゴン車で会社に戻る途中、対向車線を走行中の乗用車がセンターラインをはみ出してきて衝突した。	231	17	1～ 9
2002	6	11 ～ 12	トップドライブリバースサーキュレーションドリルで場所打ち杭孔の掘削作業中、サクションホースを取り付けたエルボの向きを変えるため2名でスイベルヘッド上に昇り機体とエルボにレバブロックを掛けレバブロックを操作中に、ヘッドから降りる途中のオペレータの身体（または雨合羽等）がヘッド昇降操作用レバーに触れたため、ヘッドが上昇しエルボと機体上部のフレームとの間に挟まれた。	143	7	30 ～ 49
2002	10	9 ～ 10	駅構内で積載型移動式クレーンを使用して枕木を荷台へ積み込む作業中、枕木を吊り上げたときにジブが高圧線（2万V）に接触し運転者が感電した。	212	13	～ 49

2002	10	13 ～ 14	線路沿いの電柱の支線を設置する工事において、作業箇所へ向うため線路を上り線から下り線の方へ横切っているとき、上り線と下り線の間張ってある高さ約60cmのロープに引っ掛かって転倒し電車に轢かれた。	232	7	1～ 9
2002	12	10 ～ 11	掘割内の切断済み柱列杭（モルタルH鋼杭）の荷揚げを行うため構台上の覆工板（1m×3m）を開けているときに、開口部（2×2m）より足を踏み外して11.5m下に墜落した。	414	1	10 ～ 29
2003	5	13 ～ 14	事業場寄宿舎で賄いの業務を行っている者が、自転車で夕食の食材を買い物に行く途中の路上で走行中の自動車との接触を避けようとして転倒し、右側頭部から後頭部を強打した。	362	17	1～ 9
2003	12	11 ～ 12	軌道新設工事において、25tラフタークレーンで枕木を軌道上の台車に載せる作業中に、つり上げた荷が作業個所に隣接する信号リレー室に接触しそうになったので、誘導員がクレーンオペレーターにブームの起伏を指示したところ、つり荷が揺れてスリングベルトから抜け落ちて枕木の一方が誘導員に激突した。	212	6	1～ 9
2004	10	6 ～ 7	鉄道車両基地内のレール交換工事で、取り外したレールを車両積載型トラッククレーンにより同トラックに積み込む作業中、クレーンのジブが架空電線（電圧2万V）に触れ、玉掛作業をしていた被災者らが感電した。	212	13	10 ～ 29
2004	10	5 ～ 6	作業を終え普通トラックに6人が乗り高速自動車道を走行中、大型トラックを追い越そうとして接触し、追い越し車線に飛び出して停車した。このとき運転者がトラックの車内に閉じ込められたため、助けようとしていたところに、後続の2台の大型トラックが突っ込んだ。	221	17	1～ 9
2004	10	5 ～ 6	作業を終え普通トラックに6人が乗り高速自動車道を走行中、大型トラックを追い越そうとして接触し、追い越し車線に飛び出して停車した。このとき運転者がトラックの車内に閉じ込められたため、助けようとしていたところに、後続の2台の大型トラックが突っ込んだ。	221	17	1～ 9
2004	10	5 ～	作業を終え普通トラックに6人が乗り高速自動車道を走行中、大型トラックを追い越そうとして接触し、追い越し車線に飛び出して停車した。このと	221	17	1～

		6	き運転者がトラックの車内に閉じ込められたため、助けようとしていたところに、後続の2台の大型トラックが突っ込んだ。			9
2004	12	5 ～ 6	夜間の保線工事に従事し、軽自動車を運転して事務所に戻る途中、国道において、前方を走行していた10 tトラックに追突した。	231	17	10 ～ 29
2004	3	11 ～ 12	鉄道の軌道修繕工事に作業責任者として就労していた被災者が倒れた。	911	90	1～ 9
2004	12	8 ～ 9	踏切付近において、道床整備工事と呼ばれる線路の下に敷き詰めている石材を締め固める作業を行っていたところ、通過する列車にはねられ死亡した。	232	18	10 ～ 29
2004	3	2 ～ 3	事業場の寮において就寝中に死亡した。	921	90	10 ～ 29
2005	11	15 ～ 16	線路のバラスト交換工事のため、ドラグ・ショベルで線路の上を自走して、鉄橋の上を移動する作業を行っていたところ、走行してきた普通列車（2両編成）に追突された。	232	18	30 ～ 49
2005	8	3 ～ 4	普通トラックを走行中、停車して荷物の点検していた大型トラックに追突した。	221	17	10 ～ 29
2005	6	22 ～ 23	線路内で枕木交換のため、交換する枕木を載せたトロッコを5人で押して作業現場に向かっていたところ、後方から列車がきて、はねられた。	232	6	30 ～ 49
2005	3	12 ～ 13	レール削正作業において、作業開始前に写真撮影をしていたところ、走行してきた列車に接触し、はね飛ばされた。	232	18	30 ～ 49
			被災者は、事務所内で一人で事務処理を行っているはずであったが、他の			

2006	1	0 ～ 1	作業員が仕事が終わりに戻ってくると事務所内にいなかったため、作業員が探したところ、プレハブ造りの倉庫内でうつ伏せに倒れているのが発見された。発見時、倉庫内には新しく導入された機械とその電源のポータブル発電機があり、当該発電機が動いていて、室内は排ガスが充満していた。	111	12	30 ～ 49
2006	4	5 ～ 6	軌道整備作業が終了し営業所へ帰所するため、6名がワゴン車に乗り大雨の高速道路を時速約80kmで走行中、突然ハンドル操作が効かなくなり左側法面に乗り上げて右に横転、後部座席に座っていた被災者が車外に投げ出され被災した。	231	17	30 ～ 49
2006	4	5 ～ 6	軌道整備作業が終了し営業所へ帰所するため、6名がワゴン車に乗り大雨の高速道路を時速約80kmで走行中、突然ハンドル操作が効かなくなり左側法面に乗り上げて右に横転、後部座席に座っていた被災者が車外に投げ出され被災した。	231	17	30 ～ 49
2006	6	4 ～ 5	軌道敷地内において、軌道に接した箇所で、新たなレールの溶接工事の仕上げ作業を行っていた被災者が、軌道を走行してきた貨物列車にはねられた。	232	18	10 ～ 29
2006	7	2 ～ 3	分岐機の点検と枕木の交換工事において、ホーム横上り本線上で携帯電話にて事前打合せをしていたところ、急行電車に激突された。	232	18	100 ～ 299
2006	8	11 ～ 12	駅ホームの上屋新設のための既設ホームの解体工事において、駅ホームの屋根及び上屋鉄骨の解体に使用した足場の撤去作業中、足場解体作業に従事していた被災者がホーム上に設けられた解体中の足場作業床上を移動中に3.9m下の線路上に転落した。	411	1	50 ～ 99
2007	6	22 ～ 23	資材置場から別の資材置場に機材を移動するために、2tトラックに機材を積み込み、高速道路を利用して運搬中、機材が荷崩れを起こしたのでこれを直すためトラックを路肩に駐車して被災者が道路に出たところ、後ろから走行してきたトラックにはねられた。	221	17	10 ～ 29
		5	鉄道高架橋軌道修繕工事現場での作業が終了したため、高架橋に設置されている揚程約12mのリフト（両側に扉が設けられている）を使用して工事			10

2009	12	6	用機材を地上に下ろす際、当該リフトの地上側扉からレール軌間整正器（レールの幅を調整する機器、長さ1.7m、重さ約28kg）が落下し、13m下の地上でリフトが下降するのを待機していた被災者に当たり死亡した。	214	4	～ 29
2009	7	3	鉄道下り線のレール交換作業において、被災者は敷石を運搬するための籠を持ちながら、上り線路を横断していたところ、貨物列車にひかれた。なお、列車運転士は被災者の姿を約50m手前で発見し、警笛を鳴らして急ブレーキを掛けたが間に合わなかった。また、本作業時には監視人を配置して、列車が通過する際には無線と声で知らせていた。	232	18	1～ 9
2009	2	2	駅から駅間でPCマクラギの積み込み作業を行っていたところ、電車接近の合図があったため、作業を一時中断して待避していたが、電車が通過する際、触車して被災した。	232	18	～ 29
2011	12	3	駅付近の軌道の分岐器（複数の軌道を切り替える装置。本設のレールと枕木が一体になっている）の設置作業において、分岐器を仮設レールで運び、分岐器を4台の吊上器で4点で持ち上げ、仮設レール等の撤去を行っていたところ、吊上器が倒れ、ずい道内の壁側付近にいた労働者3名が、倒れてきたレール及び枕木と壁の間にはさまれ被災したものの。そのほか、分岐器の上にいる労働者1名が転倒し被災したものの。	361	5	10 ～ 29
2012	12	5	被災者は深夜に行われていた鉄道工事が終了し、複数の同僚と一緒にワンボックスカーに乗車し事務所へ戻るため国道を走行中、ワンボックスカーがセンターラインをはみ出してしまい、対向車の小型トラックと衝突し被災した。なお、被災時、当該国道は、片側1車線、圧雪アイスバーン、60キロ規制であった。	231	17	～ 29
2012	12	5	被災者は深夜に行われていた鉄道工事が終了し、複数の同僚と一緒にワンボックスカーに乗車し事務所へ戻るため国道を走行中、ワンボックスカーがセンターラインをはみ出してしまい、対向車の小型トラックと衝突し被災した。なお、被災時、当該国道は、片側1車線、圧雪アイスバーン、60キロ規制であった。	231	17	～ 29
			線路下の埋設排水管補修工事で、列車先方見張を行っていた被災者と無線			

2012	2	10 ～ 11	連絡を行ったが被災者からの応答がなかったため、他の見張員が被災者の見張位置に赴いたが、姿が見えなかった。周辺を捜索したところ、指示を受けた見張位置から約200m離れた踏切わきの側溝に、意識がなく呼吸していない状態で倒れてる被災者を発見した。救急搬送したものの、頸髄損傷による窒息で死亡した。なお、被災者に頸髄以外の外傷はなかった。	418	2	10 ～ 29
2013	6	1 ～ 2	被災者は、同僚11名と道床のバラスト（砂利）交換作業に従事していた。被災者が線路上で、バラストの整理を線路上で行っていたところ、バラスト置場からバラストをバックで運搬してきた軌陸ダンプ（最大積載量3t）にひかれた。被災者は軌陸ダンプに約6m引きずられ、軌陸ダンプはその後15m進んで停車した。	232	6	10 ～ 29
2014	11	21 ～ 22	被災者は、踏切付近の道路上に停車したトラックから作業機器を人力により降ろしていたところ、一時停止することなく踏切内に進入してきた一般車両に跳ね飛ばされた。尚、現場は通行止めとする予定であったが、被災者らは通行止めをする前に荷下ろし作業を開始していた。	231	17	10 ～ 29
2014	7	5 ～ 6	積載形トラッククレーンで国道を走行中、対向車線のフェンスを突き破り、約6メートル下の道路に転落した。	212	17	10 ～ 29
2015	11	15 ～ 16	軌道維持保全用の特殊車両バラストレギュレーターの点検・整備作業中、被災者が車両に備え付けられた機械装置の可動範囲に上半身を乗り出して作業をしていたところ、何らかの原因で当該機械装置が上昇し、車両の本体と機械装置の間に頭部を挟まれたもの。	232	7	30 ～ 49
2015	10	5 ～ 6	鉄道のレール交換工事が午前5時30分に終了し、被災者らは会社事務所へ帰るため、ワゴン車に乗って国道を走行中、ワゴン車がセンターラインをはみ出して、対向車の4トントラックと正面衝突し2名が死亡、1名が負傷した。なお、4トントラックの運転手も被災した。	231	17	1～ 9
2015	10	5 ～	鉄道のレール交換工事が午前5時30分に終了し、被災者らは会社事務所へ帰るため、ワゴン車に乗って国道を走行中、ワゴン車がセンターライン	231	17	1～

	6	をはみ出して、対向車の4トントラックと正面衝突し2名が死亡、1名が負傷した。なお、4トントラックの運転手も被災した。			9
2016	7	11 被災者は、同僚の運転するライトバンに同乗して作業現場へ向かう途中、 ～ 信号機のある県道交差点を右折しようとしていたときに2トントラックに 12 右側から衝突され死亡した。	221	17	10 ～ 29
2016	4	10 積載型トラッククレーンからの荷卸作業に際し、後方を向いていたクレー ～ ンのブームを前方によけるために、職長がギアがバックに入っているとは 11 知らずにクレーン操作のためエンジンキーを回したところ、トラックが不 意に15cm程度後退した。その直後、トラックの後方で、後あおりが開 いた状態で被災者が仰向けに倒れているのが発見され、被災者の胸部に水 平な線状の痣が認められた。	221	6	1～ 9
2020	8	16 当日の作業が終了し、被災者らは作業現場から約600m離れた場所に設 ～ 置してあった作業表示標を撤去するため、軽トラックで移動し、国道の路 18 肩に軽トラックを停車させ、被災者①が国道を横切ろうと車の往来が途切 れるのを路肩内で待っていたところ、南西より走ってきたワゴン車に激突 され、そのまま軽トラックの間に挟まれ、数十m進んで停車した。被災者 ①は2時間後に死亡し、軽トラ運転手の被災者②は負傷した。	231	17	10 ～ 29
2020	7	22 事業場から夜間工事現場へ、代表が運転するワゴン車に9名が同乗し、高 ～ 速道路を走行中、ジャンクションに差し掛かり、カーブでブレーキをかけ 24 た時、車両左側後輪が横滑りして左側の側壁に激突し、車両左後方に乗車 していた被災者が頭頸部損傷で死亡、1人が休業6か月の重傷を負った。	231	17	10 ～ 29
2020	3	10 ケーブルクレーン用バックステーアンカー支圧版設置部の掘削が完了し、 ～ 掘削後の斜面にこぼれた土砂の清掃作業をコンプレッサーに接続されたエ 12 アホースで行っていたところ、被災者が作業を行っていた箇所上方の岩盤 が長さ4.5m、幅3.5mにわたり崩落し、当該岩盤の上部にあった岩石（約1m×1m、厚さ約60cm）の下敷きとなったもの。	711	5	1～ 9
		新幹線のトンネルの坑口の上に通路が2段あり、被災者は、作業（坑口構造物の草取り）場所に行くため、上の段の通路を歩行中、体勢を崩し前の			

2020	3	0 ～ 2	<p>めりになり、たたらを踏みながら下の段の通路に落ち、体の向きを180度変えて、背中から更に11.5m下の線路付近に墜落した。通路の幅は、上の段1.5m、下の段1.6mで、下の段は上の段の1.9m下にあり、その間の斜面は長さ3.6m・傾斜32～35度であった。</p>	418	1	30 ～ 49
------	---	-------------	---	-----	---	---------------

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。